2022年度 横浜国立大学·教職大学院

実習の手引き

目次

Part1.	教職大学院におけ	る「学校実習」	(教職専門実習)	の概要	·····p1-4.
 2. 教職 3. ギガ 	大学院における「 大学院における「 スクール構想と学 で扱われる項目の	- 学校実習」の主 学校実習		h らい	
Part2.	横浜国立大学教職	機大学院における	「学校実習」の	概要	·····p5-11.
2. 実習 3. 横浜 4. 各プ	実習の基本構造 校の設定とその決 国立大学教員養成 ログラムの概要 すべき事項		ードの反映		
Part3.	各プログラムの「	「学校実習」の詳	細	•••••	·····p12-28.
2.教科	教育・特別支援教	育プログラムの	学校実習	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	p13-16. p17-21. p22 .

Part1. 教職大学院における「学校実習」(教職専門実習)の概要

1. 教職大学院における「学校実習」(教職専門実習)のねらい

近年,「教職生活全体を通じて、実践的指導力等を高めるとともに、社会の急速な進展の中で、知識・技能の絶えざる刷新が必要であることから、教員が探究力を持ち、学び続ける存在であることが不可欠である。」と指摘され、「学び続ける教員像」の確立が求められている(中教審答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」2013)。しかし、「大学院段階の教員養成の改革と充実等について」(文部科学省:教員の資質能力向上に係る当面の改善方策の実施に向けた協力者会議、2013)は大学院段階について、「現職教員の再教育と実践的指導力の養成を目的に掲げてきたにもかかわらず、学校現場での実践力・応用力など教職としての高度な専門性の育成がおろそかになっており、(中略)体系的なプログラムを必ずしも提供してこなかった。」と指摘している。教職大学院の「教職課程改善のモデル」は、「大学院における『理論』の学修と学校における『実践』を組み合わせ、理論知と実践知を往還する探究的な省察力を育成する体系的な教育課程の確立」を求めている。

養成・採用・研修等を通じた教師の資質能力向上

- ●大学における養成が原則
 - ・教職課程の認定を受けた学科等において、教科及び教職に関する科目等を修得することにより、採用当初 から学級や教科を担任し、教科指導、生徒指導等を実践するために必要な最小限の資質能力を養成
- ●教職大学院の設置
- ・大学院段階における教員養成課程を充実し、高度かつ実践的な教員養成を行う

養成

教職生活全体を通じた職能成長を実現する環境づくり

採用

研修

- ●都道府県・指定都市教育委員会等において採用選考試験を実施
- ●多面的な人物評価の一層の推進
 - ・面接試験・実技試験の重視
 - ・様々な社会経験等の評価

- ●都道府県教育委員会等における研修
 - ·初任者研修、中堅教諭等資質向上研修 等
- ●国(教職員支援機構)における研修
 - ・各地域において中心的な役割を担う教職員に対する学校 運営研修
 - ・ 喫緊の重要課題研修 等

適切な人事管理

- ●指導が不適切な教員に対する人事管理システムの適切 な運用
- ●教員評価システム ●優秀教員表彰

免許更新制

- ●定期的に最新の知識技能を身につけることで教師が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることか 目的
- ●免許状に10年の有効期間を定める

養成・採用・研修の一体化(文科省リーフレットより)

例えば、教職大学院の学校実習は、「教員としての高度な専門性と課題解決力を養うため、自ら企画・立案したテーマについて学校現場においての体験・経験を省察し、高い専門的自覚に立って客観化し、理論と実践の往還・融合をはたしうるものでなければならない。(中略)探究的実践演習としての性格を重視する」と総括されている(日本教職大学院協会年報、2015)。また、教員の資質能力を向上こそが最重要と指摘され、中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」(2015)等の提言を踏まえ、図に示した「教員の養成・採用・研修」を通じた一体的改革を推進した。このように教職大学院は、「教員の養成・採用・研修」の一翼を担うのであるが、その取組の一つが、責任ある一員として学校教育に参画し、「理論と実践の往還・融合」を図る「学校実習(教職専門実習)」(以下、学校実習)である。

2. 教職大学院における「学校実習」の主な特徴

教職大学院の「学校実習」について、「単に学部段階における教育実習の延長ではなく、その教育実習を通じて得た学校教育活動に関する基礎的な理解の上に、一定程度長期間にわたり、教科指導や児童生徒指導、学級経営等の課題や問題に関して、自ら企画・立案した解決策を学校において実証的に体験・経験することにより、自ら学校における課題に主体的に取り組むことのできる資質能力を培うものである。つまり教職大学院における実習は、明確に高度に専門的な実務実習であることが必要である。」と明記されている(文部科学省 HP「学校における実習(教職専門実習)のねらい」)。担当教員(大学教員)の指導のもとで実習を行うことにより、学生は、理論と実践の架橋・往還・融合の意味と意義を実感し、いわば理論知を実践知に変換する資質能力を獲得する。特に現職教員学生については、実習は、自らの実践とは異なる教育実践を客観的に観察し、あるいは特定課題に関わる学校での実務を主体的に担うことなどを体験・参画することにより、自らの教育実践を相対化し、その上で教職大学院においてさらに伸ばすべき自らの資質能力の研究・育成を計画する機会となる。その教職大学院における「学校実習」の主な特徴は、大別して以下の通りである。

- (1)教職大学院における学校実習は、学部段階での教育実習とは質量において明確に違ったものとなるようにテーマ・目的、内容・方法が明確に計画されている。
- (2)学校現場の現代的課題と具体的に関わることのできる実践的資質・能力(教師力)を育成する観点から、教育の理論と実践の往還・融合を視野に入れたものとなる。学校実習の内容は、「共通科目」「プログラム別選択科目」における履修内容との体系性を考慮しつつ、学校改善に資する実践を研究化する。
- (3)学部卒業学生の学校実習については、現在、県・市自治体で実施される初任者研修の内容との整合性・関連性に留意したものとなる。また、学部段階における教育実習生の指導を担当させるなどの工夫により、自らの知識・技能の定着を図り、これを通じて可能な限り即戦力としての力量の形成を目指す。
- (4)指導教員の指導・助言のもと、学校課題の解決策を立て、それを実地に検証することを通じて、主体的に学校運営や学級運営に関わり、**実習校の責任ある当事者の一員として参画できるよう**に取り組む。
- (5)学校実習を行う学生個々の指導力の向上はもとより、広く地域の学校教育の改革を目指す実践的価値の追求が、学校実習の在り方の理想像とされる。このため、学校実習の計画においては、実習校全体、及び、地域全体の教育力向上の一端を担う視点が組み込まれる場合もあり得る。(文部科学省 HP「学校における実習 (教職専門実習)のねらい」)

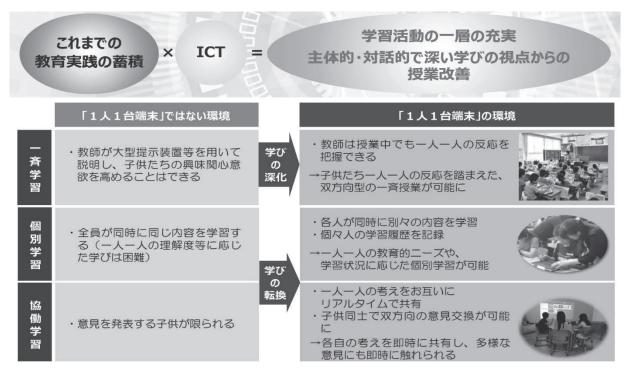
つまり、以上のように、学校現場における明確化されたテーマ・目的に向けて計画(Plan)・ 実施(Do)することから、その評価(Check)・改善(Action)の PDCA サイクルを通して、教職大 学院における教育・研究の展開にとっても、実践的・学的意義があることが肝要となる。

3. ギガスクール構想と学校実習

コロナ禍の影響で社会の在り方が大きく変化した現在、学校教育も例外ではない。特に、初等教育・中等教育、そして高等教育の各段階でICT機器を活用したリモート教育が焦点化されたことは周知の通りである。ここで、「文部科学大臣メッセージ(2019年12月)」は、以下に示す構造図のように「子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けて ~令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境」、いわゆる「ギガスクール構想」の指針を示している。その中で、要点となるものを抜粋し、以下の通り示す。(文部科学省「ギガスクール構想」https://www.mext.go.jp/a_menu/other/index_0001111.htm)

「Society 5.0 時代に生きる子供たちにとって、PC 端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムであり、今や、仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所で ICT の活用が日常のものとなっています。1人1台端末環境は、もはや令和の時代における学校の『スタンダード』であり、特別なことではありません。これまでの我が国の150年に及ぶ教育実践の蓄積の上に、最先端のICT教育を取り入れ、これまでの実践と ICT とのベストミックスを図っていくことにより、これからの学校教育は劇的に変わります。 1人1台端末の整備と併せて、統合型校務支援システムをはじめとした ICT の導入・運用を加速していくことで、授業準備や成績処理等の負担軽減にも資するものであり、学校における働き方改革にもつなげていきます。」

以上の観点を踏まえ、全国的にも学校実習の在り方も再構築される必要があり、本学の強みとして、「ギガスクール構想と学校実習」の発展を図っていく。もちろん、ICT環境整備は手段であり目的ではない。学習者が変化を前向きに受け止め、持続可能な社会の創り手として、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成していくことが肝要である。



「ギガスクール構想の実現へ」(文部科学省リーフレットより)

4. 実習で扱われる項目の具体例

文部科学省 HP の整理によれば、実習の具体例は以下に示す通りである。本学の学校実習もこれらの大部分をカバーするものとなっているが、まずは学部卒業生の1年次において、学校の実態を把握した上で実習テーマを決定し、その当該実習に取り組むことになる。

(1)教育課程の編成・実施及び各教科等指導領域

- ①教育課程の編成・実施
 - •学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成
 - •地域や学校の実態に応じた教育課程の編成
 - •授業時数など教育課程の管理
- •教育課程の評価と改善

- ②各教科等の指導
 - •授業設計の在り方(進め方等)
 - •年間指導計画の作成
 - •教科指導の基礎技術
 - •体験的・問題解決的な学習
 - •授業と児童生徒等の理解
 - •授業参観,授業研究

- •学習指導案の作成
- •教材研究の方法と実際
- •授業実践と指導技術
- •評価問題の作成と評価の在り方
- •特別な支援を要する児童生徒の指導
- •様々な形式の授業実践(少人数,習熟度別,T.T等)
- •道徳教育(全体計画,年間指導計画,道徳科の指導等)
- 「総合的な学習の時間」(全体指導計画と年間指導計画,学習指導上の工夫,地域資源の活用等)
- ・特別活動(全体計画,年間指導計画,学級活動の指導と評価,クラブ活動,学校行事の指導と評価, 児童会・生徒会活動の意義)

(2) 学級経営·学校経営領域

- ①学級経営関係
 - •学級経営案の作成
 - •学級組織づくり(学級・児童会・生徒会,委員会編成,班づくり等)
 - •学級環境整備(学級設営の工夫,清掃指導)
 - •学級活動の指導計画と指導(朝の会、帰りの会、ホームルーム、給食指導等)
 - •学校行事(儀式的行事,運動会,学習発表会,修学旅行,社会奉仕体験活動等)等を通じた学級経営
 - •家庭との連携(学級 PTA・保護者会,学級通信,家庭教育学級)
- ②学校経営関係(学年経営を含む。)
 - •学年経営目標と学級経営

- •学校経営の計画
- •学校の組織運営(校務分掌)の在り方
- •学校評価

•学校の安全管理

(3) 児童生徒指導・進路指導的領域

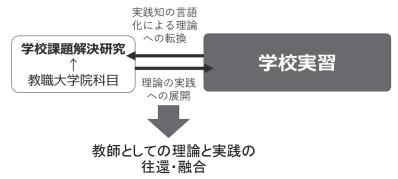
- ①児童生徒指導関係
 - •児童生徒理解の内容と方法
 - •組織的な児童生徒指導体制の在り方
 - •カウンセリングマインドの意義と実際
- ②進路指導関係
 - •進路情報の収集と活用

- •児童生徒理解に基づく誉め方・叱り方
- •教育相談の方法
- •問題行動に関する事例研究
- •学校の進路指導体制の在り方

Part2. 横浜国立大学教職大学院における「学校実習」の概要

1. 学校実習の基本構造

教職大学院における学校実習は、大学院での学びの中核となるものであり、教師としての理論と実践の往還・融合を図る大切なものである。学部卒業学生においては、実習校の責任ある当事者の一員として、学校における教育活動や実務全般について総合的に体験し、授業や学級経営に関する基本的なスキル等を身に付け、各自の課題解決研究の課題を発見するとともに、課題解決研究で検討した理論に基づいた授業実践を行っていく。現職教員学生については、自らの実践を省察するとともに学校現場における課題を明らかにし、その実践知や課題を大学での学びや課題解決研究を通じて言語化による理論への転換を図り、その理論の実践へ展開することで、新しい教育アプローチを開発することを目的とする。



	(6単位) (2単位), 「教育課題解決実地研究」 (2単位) 教科教育・特別支援教育プログラム※ 2 学生 「教職専門実地研究 I (特別支援 教育教職専門実地研究 II (特別支援 教育教職専門実地研究 II)」 (5単位) (5単位) (5単位) 「授業改善実地研究 (特別支援教育授業改善実地研究 (特別支援教育授業改善実地研究)」 (2単位) 附属学校教員特別プログラム※ 3				
	学校マネジメントプログラム	×× 1			
現職教員派遣学生	「教職専門実地研究Ⅲ」	「教育課題発見実地研究」			
	(6単位)	(2単位),			
		「教育課題解決実地研究」			
		(2単位)			
	教科教育・特別支援教育プログラム※2				
学部卒業学生	「教職専門実地研究 I (特別支援	「教職専門実地研究II(特別支援			
	教育教職専門実地研究 I)」	教育教職専門実地研究Ⅱ)」			
	(5 単位)	(5 単位)			
現職教員学生	「教職専門実地研究IV」	「授業改善実地研究(特別支援教			
	(8単位) ※3	育授業改善実地研究)」			
		(2単位)			
	附属学校教員特別プログラム	× 3			
附属学校教員学生	「教職専門実地研究V」				
	(10 単位) ※ 4				

- ※1 学校マネジメントプログラムは、教育研究業績等により短期履修可能。その場合、「教育課題発見実 究」と「教育課題解決実地研究」を1年次に実施、「教職専門実地研究Ⅲ」を免除する。
- ※2 言語・文化・社会グループ, 自然・生活グループ, 芸術・身体・特別支援グループの3グループからなる。
- ※3 教育研究業績等により免除が可能。
- ※4 修業年限について4年間の長期履修を基本とする。

2. 実習校の設定とその決定プロセス

(1)連携協力校について

学校実習は連携協力校で実施する。連携協力校は、横浜国立大学教職大学院と連携を結んでいる学校である。また、学生の居住地や就職希望自治体、実習内容によっては、連携教育委員会が連携協力校を選出する場合もある。その他、現職教員の原籍校は、原則2年間(長期履修学生の場合は在学期間)連携協力校となる。

連携協	2 +	林	#

小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他の施設
・井土ヶ谷小学校	· 寺尾中学校	多摩高等学校	中原養護学校	 神奈川県立総合
・大岡小学校	· 港南中学校	• 橋本高等学校	· 相模原中央支援学校	教育センター
桜台小学校	六浦中学校	伊志田高等学校	金沢養護学校	・横浜市教育委員会
・瀬ケ崎小学校	• 仲尾台中学校	• 湘南台高等学校	・茅ケ崎養護学校	· 川崎市総合教育
・戸部小学校	· 松本中学校	· 鶴見総合高等学校	財富特別支援学校財富特別支援学校	センター
- 名瀬小学校	- 本宿中学校	· 蜗兄似日间守于仪 · 光陵高等学校	阿馬特別又拨子以	623—
・保土ケ谷小学校	· 本伯中子校 · 汲沢中学校	- 兀阪向守子仪		
・本町小学校	・洋光台第二中学校			
・三ッ沢小学校	・青葉台中学校			
• 南太田小学校	• 軽井沢中学校			
• 仏向小学校	• 中田中学校			
• 浦郷小学校	日吉台西中学校			
附属鎌倉小学校	• 宮前平中学校			
• 附属横浜小学校	大津中学校			
• 政令指定都市以外	• 附属鎌倉中学校			
の神奈川県下の	附属横浜中学校			
小学校 ※ 1	政令指定都市以外			
	の神奈川県下の			
	中学校 ※ 1			

- ※1政令指定都市以外の神奈川県下の小学校及び中学校については、以下の教育事務所または 自治体との調整により、連携協力校を決定する。
 - ·県西教育事務所(南足柄市教育委員会,中井町教育委員会,大井町教育委員会,松田町教育委員会,山北町教育委員会,開成町教育委員会,小田原市教育委員会,箱根町教育委員会,真鶴町教育委員会,湯河原町教育委員会)
 - · 県央教育事務所(大和市教育委員会)
 - ・湘南三浦教育事務所(茅ケ崎市教育委員会、藤沢市教育委員会)
 - ·中教育事務所(平塚市教育委員会,伊勢原市教育委員会)
 - ·横須賀市教育委員会

(2) 実習校の選定について

実習校の選定にあたっては、本学部の附属学校群に加え十分な指導体制が取れるように県・市自治体の学校群と協定締結をして、上記の連携協力校に実習依頼ができるシステムを構築している。どの学校を実習校として選定するかについては、当該学校における実習が、学生の資質向上に資するものであることは当然として、当該実習校にとっても有意義なものであることが期待されている。従って、実習計画の立案に当たっては、学校の受け入れ体制、及び、当該校の教員との関係構築(積極的役割等)の観点も重視する。

3. 横浜国立大学教員養成・育成スタンダードの反映

実習内容については、履修課題、実習校種・地域等の実態によって多岐にわたるが、個人テーによって実施するものでなり、あるでまとが重要である。特に、学部段階としたが重要では、学部段階とした教育生についな資質・能力を関係を表する機会であるとが実践に融合する機会であることが実ました。 実習計画においては、図にによっては、実習計画においては、図にによっては、実習計画においては、対策を表している。

(1) 教員に求められる基盤的資質

- ●豊かな人間性
- ●教職への熱意
- ●コミュニケーション能力など

(2)教職に関する理解・ 教科等の指導と評価

- ●教育関連法規
- ●学習指導要領
- ●学習指導案の作成
- ●授業実践など

(3) 児童生徒指導

- ●発達の段階の理解
- ●児童生徒への接し方
- ●学級担任の職務
- ●学級経営の理解など

(4)学校マネジメント

- 教育行政·教育制度
- ●学校組織マネジメント・
- メンタリング
- ●カリキュラム・ マネジメントなど

本学の教員養成・育成スタンダードは、教員養成の教職課程コアカリキュラムに対応した4 領域に準拠しつつ、同時に、神奈川県内各教育委員会の教員育成指標をほぼ網羅し、発展させた規準となっている。これに加え、学部と教職大学院との接続(養成・採用・研修の一体化)を明確化し、教職大学院(学校マネジメント、教科教育・特別支援教育)の指導内容を完結している。学校実習において取り組むリフレクションにおいても、「横浜国立大学教員養成・育成スタンダード」を念頭におくことが最重要である。具体的に以下に述べる。

(1)教員に求められる基盤的資質

本領域は、教職に就く教育公務員として、教師に求められる資質・能力における人間性等 の涵養に係る部分となる。熱意と倫理感を持って教育に携わる中で、公正公平に児童生徒と 向き合い、コミュニケーションを通じて良好な関係性を構築することが期待される。

(2)教職に関する理解・教科等の指導と評価

本領域は、教育課程の編成の在り方とともに、教員の資質・能力の要である授業力を養う部分となる。なお、ここでは特別支援学級及び通常の学級における発達障害等の児童生徒等に関する指導の観点も採り入れることが望ましい。

(3)児童生徒指導

本領域は、児童生徒等の理解に基づく、児童生徒指導、進路指導等の推進を図ることができる資質・能力を育成する部分となる。積極的に児童生徒と関わりながら、良好な人間関係を構築するとともに、自己指導能力の育成を図ることが求められる。

(4)学校マネジメント

本領域は、学校組織をマネジメントする視点から、学級・学年・学校の管理運営の諸要素を学修する。1次円(児童生徒の育成等)、2次円(教職員の育成・組織改善等)、3次円(保護者・学校外組織との連携等)の改善をリードする学修内容となっている。

4. 各プログラムの概要

各学生のタイプは、大別すると以下の表のように4分類化されると整理できる。よって、本学 教職大学院は、各学生のニーズに対応する「オーダーメイド」の指導を進めていく。

院生のニーズ	教職大学院における指導
・これまでの実践を総括して価値づけた	1. Action research 型の指導。
い。(実践から理論:帰納的思考)	2.1~2年、または長期間の一貫性のある授業・研究指導
・今後の実践を発展させる方向性を持ち	が不可欠。(実践を前提に、本人・関係者・学校を改善
たい。(理論から実践へ:演繹的思考)	する研究)
・せっかく大学院に来たのだから,大学	3. 学び続ける教師:中長期的 vision が重要。
院らしい学びをしたい。	4. 指導者は実態が高い教師を教える「専門的指導力」が
	必要。(理論・実践・実証の融合力)が必要。
・担任する子どもたちのために、或は周	1. 授業実践・学級指導・特別支援等で、即効性が高く、学
囲の関係者の期待に鑑み、教師として	びが実感できる指導
納得がいく実践力を身につけたい。	2.「こうすればこうなる」等の実践的法則の指導
・もっと「いい先生」になりたい。	3. 実践をみとる(分析する)端的な視点に関する指導
・若手のモデルとなる先生になりたい。	4. 学び続ける教師:短期(実践スキルアップ)指導
	vision が重要。
・教師として、即、役立つ必要な実践力	1. 学級/授業等で、即効性が高く、学びが実感できる指導
を身につけたい。	2.「こうすればこうなる」等の実践的法則の指導
・豊かな教師人生を送りたい。その開始	3. 実践をみとる(分析する)端的な視点に関する指導
点を学びたい。	4. 短期(初任)指導 vision が最重要。
・今後の実践を発展させる方向性を持ち	1. Action research 型の指導。
たい。(理論から実践へ:演繹的思考)	2.2年間で一貫性のある授業,及び研究指導が不可欠。
・せっかく大学院に来たのだから,大学	3. 学級/授業等で、即効性が高く、学びが実感できる指導
院らしい学びを。	4.「こうすればこうなる」等の実践的法則の指導
・教師として長期スパンでも役立つよう	5. 実践をみとる (分析する) 端的な視点に関する指導
な、有益な実践力を身につけたい。	6. 短期(初任), 及び中長期(5年後・10年後)の指導
・豊かな教師人生を送りたい。その開始	vision が必要。
点を学びたい。	
	・これまでの実践を総括して価値づけたい。(実践から理論:帰納的思考) ・今後の実践を発展させる方向性を持ちたい。(理論から実践へ:演繹的思大学院にいっかい学びをしたい。 ・担任する子どもたちのために、或はしての関係者の期待に鑑み、教けたい。・若手のモデルとなる先生になりたい。・若手のモデルとなる先生になりたい。・若手のモデルとなる先生になりたい。・一教師として、即、役立つ必要な実践力を身につけたい。・一参の実践を発展させる方向性を持ちたい。(理論から実践へ:演繹的思考)・せっかく大学院に来たのだから、大学院に来たのだから、大学院らしい学びを。・教師として実践力を身につけたい。・一会後の実践を発展させる方向性を持ちたい。(理論から実践へ:演繹的思考)・せっかく大学にに来たのだから、大学院に来たのだから、大学院になりまりない。

(1)学校マネジメントプログラムについて(主に院生のタイプ1を想定)

学校マネジメントプログラムでは、自律的な学校運営と学校マネジメントを担うミドルリーダー、管理職候補、指導主事等の養成を行うことを目的とする。そこで、「教職専門実地研究 III」、「教育課題発見実地研究」、「教育課題解決実地研究」を通して、学校のミドルリーダー、管理職(トップリーダー)、指導主事(エリアリーダー)等のいずれかを視野に入れた研究計画を立案し、それに対応した実習内容を個別に調整する。これまでの教職キャリアを省察し、学校あるいは教育委員会、教育センター等における教育実践上の課題を探索する中で自己の研究テーマを設定し、理論を基に課題解決の計画を立て、解決に向けた実践に取り組む。

(2)教科教育・特別支援教育プログラムについて(主に院生のタイプ2~4を想定)

教科教育・特別支援教育プログラムでは、確かな学力の育成とそれを保障する授業改善や多様なニーズに適切に対応できる教員の養成を行う教科教育領域と特別支援教育の充実を図ることを目的とする。

学部卒業学生は、「教職専門実地研究 I (特別支援教育教職専門実地研究 I)」で、単元を通した指導計画を立案、児童生徒の実態を踏まえた学習指導案の作成、授業においては、児童生徒の姿に応じて柔軟に実践ができ、授業後には、毎時間の児童生徒の学びを省察し、理論と実践を結びつけながら授業の改善ができるようになることを目指している。「教職専門実地研究 Π (特別支援教育教職専門実地研究 Π)」では、教師としての自律した授業、学級経営、学

年経営や校務分掌など学校運営に関する在り方や役割を考えることができ、若手教師として校 内で中心的存在 (ヤングリーダー) になることを目標とする。

一方,現職教員学生は「教職専門実地研究IV」「授業改善実地研究(特別支援教育授業改善実地研究)」において、自らの実習を記録し、理論と結びつけながら、まずは、学校課題(研究課題)解決に向けた授業等、学校マネジメントの在り方を分析する。次に、校内の教師の関係性を構築し、校内に同僚性の基盤を作り、リーダーシップを発揮しながら学校改善を促進することが究極的な学修目的となる。

(3)教職大学院における学校実習と研究活動の融合について

「学校課題解決研究 I・Ⅱ」(必修)において、学校実習における取組について、グループ報告や討議、全教員・全学生が一堂に会してのプレゼンテーション等により、各自の情報交換、意見交流を定期的に行う。また、指導教員による指導学生への指導、グループ省察、自己リフレクションを通して、大学院での学修と学校実習での取組を総括する。また、実習校等の教育実践、及び、学校改善に貢献できるように「教育実践研究報告書」にまとめ「教職大学院研究成果報告会」において発表する。

この他、学生の研究経過や成果を発表する場として、各種学会等を活用し、その成果を広く発信し、多様な視点からの批判的検討をくぐることで、より深い総括ができるようにする。短期履修で修了した現職教員学生は、修了一年後にその後の取組も含めた全体の総括を「教職大学院研究成果報告会」において報告し、その普及に努める。

(4)博士課程への進学も可能となる教育学術論文の作成について

各プログラムに共通して、「○○の高度教育研究方法論」(○○には、学校マネジメント、教科等名もしくは特別支援教育が入る。学校マネジメント、国語、社会系教科、生活科・総合、数学、理科、音楽、美術科、保健体育、技術、家庭科、英語科、特別支援教育の13科目を設置。)のいずれかの科目を履修することによって、修士論文と同様の論文審査(主査1名、副査2名)を受けることが可能となり、教育学術論文の作成に必要な能力の修得も可能となる。なお、修士論文相当の学術論文の作成を希望する場合は、「学校課題解決研究Ⅰ・Ⅱ」(必修)に接続する科目として、選択科目「学校課題解決研究A・B」も必ず履修すること。

種別	科目名	科目の性格	提出する報告書
	学校課題解	全ての学生が必修科目とし	
必修	決研究I	て履修する。	【教育実践研究報告書】
	学校課題解	全ての学生が、学校課題解	・学校課題の解決に資する研究
	決研究Ⅱ	決研究Ⅰに引き続いて必修	・A4 で 10 頁程度
		科目として履修する。	
選択	学校課題解	学校課題解決研究Ⅰ, Ⅱの	【学術論文(修士論文相当)】
	決研究 A	基礎として位置づけられ,	・教育実践を対象とした研究(教科内容に関する専門研
	学校課題解	選択科目として履修する。	究は除く)
	決研究 B		・神奈川の教育課題に資する研究・「〇〇の高度教育研
			究方法論」を必修とする(〇〇には教科等名が入る)
			・修士論文と同様の論文審査(主査1名,副査2名)を
			行う。
			・教育実践研究報告書も提出が必要

5. 遵守すべき事項

実習を行う前に、以下の「守秘義務及び、個人情報等の取扱いに関する遵守すべき事項」並びに「研究倫理等に関する遵守すべき事項」を確認し、**手引きの巻末に掲載されている「宣誓書」**

(様式1) に記入すること。記入後は,大学院係窓口に提出する。

- (1)守秘義務及び、個人情報等の取扱いに関する遵守すべき事項 ①守秘義務に基づき、実習中に知り得た秘密はもらしてはならない。
 - ②個人情報の取り扱いについては、各自治体が定める条例等に従うこと。
 - ③デジタルデータの取り扱いについても、各自治体が定める条例等に従うこと。
 - ・画像や動画を、教職大学院の教員や学生以外に見せないこと。実習校の求めに応じ、実習校 での研修等に限定して、活用する場合があること。
 - ・不特定多数がのぞき込めるような環境で画像や動画を閲覧しないこと。
 - ・教材作成等に利用する自分のコンピュータから外部記憶メモリ等を介してのウィルス感染の 拡散もあるため、コンピュータに必ずウィルス対策を行うこと。また、ウィルス対策ソフト や使用するアプリケーションソフトのセキュリティアップデート及びセキュリティのフルス キャンを定期的に行い、セキュリティを常に最新の状態に保つこと。

(2)研究倫理等に関する遵守すべき事項

- ①研究者として自覚ある行動をとり、以下の「不正行為」を行わないこと。
- ・捏造 存在しないデータ又は研究結果等を作成すること。
- ・改ざん 研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた 結果等を真正でないものに加工すること。
- ・盗用 他の研究に携わる者のアイデア分析・解析方法,データ,研究結果,論文又は用語を, 当該研究に携わる者の了解又は適切な表示なく流用すること。
- ・その他の不正行為 不適切なオーサーシップ,故意による研究データの破棄や不適切な管理 による紛失など,研究活動を弱体化させる不適切,無責任な行為全般は行わないこと。

(参照:国立大学法人横浜国立大学における公正な研究活動の確保等に関する規則)

- ②報告書等で文献を引用する際は、出典を明らかにし、引用を明確にすること。
- ・文献の文章をそのまま報告書に引用する場合は、括弧等を用いて、報告書等の本文と引用部 分が明確になるようにすること。
- ・研究内容や研究プロセス,成果等において,人権を侵害することがないように細心の注意を 払うこと。
- ・尚、研究に先立って、必要に応じて、本学研究推進機構が設置する「人を対象とする非医学 系研究倫理専門委員会」による倫理審査を受けること。

(3)実習に関わる撮影について

実習を行う前に、手引きの巻末ある「実習に関わる撮影のお願い及び承諾書」(様式2)に必要事項を記入し、実習校に持参して依頼する。実習校から「実習に関わる撮影に関するお願い」について了承が得られたら、**下部の「承諾書」を大学院係窓口に提出する**(複数の学生が所属する場合は、学校で1部とする)。なお、撮影した映像が画像の扱いについては、以下に準ずること。

- ・撮影した映像や画像を保存しているタブレット端末・パソコン,外付けハードディスク, USB メモリには、パスワードを設定し、不用意に外に持ち出さないこと(大学、実習校以 外では必要以外使用しない)。
- ・撮影した映像や画像を保存しているタブレット端末・パソコンにソフトをインストールする際には、ソフトの安全性について十分確認すること(フリーソフトなどで開発者等がはっきりしないものはインストールしない)。

(4)学校実習におけるハラスメントの防止と対策に係る事項

学校実習中は、実習生が児童・生徒にハラスメントをする、実習先の教職員からハラスメントを受ける、実習生同士でのハラスメントが生じる可能性がある。ハラスメント行為について、以下のことを確認すること。

①セクシュアル・ハラスメント

	性的な言動	性差別的な言動
発	体型や容姿などの身体的特徴を話題にする/	「男のくせに根性がない」,「女は学問に向かな
言	聞くに耐えない卑隈な冗談を交わす/性的な	い」などと発言する/「男の子」,「女の子」,
関	噂を立てたり、性的なからかいの対象にした	「僕,坊や,お嬢さん」,「おじさん,おばさん」
係	りする等	等と人格を認めないような呼び方をする/同性愛
		や性同一性障がいであることをからかったり、差
		別的な表現をしたりする等
行	雑誌等の卑狸な写真、記事等をわざと見せた	性別を理由にお茶くみ、掃除、私用等を強要する
動	り,読んだりする/学内のパソコンのディス	等
関	プレイに卑授な画像を表示する/身体を執拗	
係	に眺め回す/メールや電話で執拗にコンタク	
	トをとる等	

②パワー・ハラスメントとは

公の場において大声で叱責された/ミスを大声で注意された/挨拶をしても無視され、会話をしてくれない/意図的に必要な情報が与えられない/職務上知り得た個人情報や、虚偽の噂などを周囲に流された/有利な立場を利用して無理な要求を強要された等の行為が継続的に行われること。

③ハラスメントを受けた場合

- ・一人で抱え込まないで、実習校の話せる教職員や管理職に相談すること。
- ・実習校に相談した内容は、横浜国立大学の指導教員にも報告すること。

■横浜国立大学の基本姿勢

横浜国立大学は、ハラスメントが個人の尊厳と人格を傷つけ、教育・研究にかかる就学就労の権利等を侵害する行為であるという認識に立ち、ハラスメントの防止に努めるとともに、万一、ハラスメントによる被害が生じたときには、被害者の救済を第一に考え、公正かつ適切に対応します。ハラスメントとは、教育・研究にかかる就学・就労の場において、行為者の意図にかかわらず、相手方に与える不利益や不快感、脅威、個人の尊厳又は人格を侵害する言動等を言います。ハラスメントには、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント等があります。その他、ハラスメントについての詳細は、こちらを参照してください。

https://www.ynu.ac.jp/campus/harassment/pdfyharassment_5.pdf

相談窓口:各学部等に相談員がいますが、自分の所属学部等以外の相談員でも相談できます。

相談員名簿は、大学 HP またはハラスメントリーフレットにも記載しています。

http://www.ynu.ac.jp/campus/harassment/pdf/harassment-meibo_h30.pdf

Part3. 各プログラムの「学校実習」の詳細

2021 年度開始の教職大学院プログラムの構造は、以下の図に示す通りである。

・特別支援教育プログラム 数科教育

教科等の専門的知識と高度な実践的指導力を備えた新人教員,現職教員の養成 (現職教員の場合,現職教員経験3年以上) 46単位

管理職候補,指導主事等の養成

中核的中壁教員(ミドルリーダー), 管理職候補, _{11等エ} (現職教員経験10年以上、2校以上の学校現場等の経験) 4**6単**位

(16単位)

共通科目(必修) ·5領域各1科目

学校マネジメントプログラム

(16単位) 共通科目(必修) ·5領域各1科目

連携科目

神奈川の教育課題3科目

プログラム別選択科目 (6単位以上)

・各教科が設定する選択科目(6単位以上)

(学術論文として審査を希望する場合必修) 高度教育研究方法論 (2単位)

プログラム共通選択科目・他プログラムの選択科目

(4単位程度)

0~6単位)

特別支援教育サブプログラムの場合 (10単位以上)

学校実習科目(10単位,現職教員8単位まで免除)

- 教職専門実地研究Ⅰ・Ⅱ 」 (5単位+5単位)

(現職教員2単位)

·授業改善実地研究」

共通科目(必修)の 一部は現職教員学生 と学部新卒学生が合 同で受講 各プログラムで設定 されている科目の相

互選択も可能

特別支援教育 サブプログラム のみ取得可能 注:特別支援專修 免許は

教育学部

「学校課題解決研究A・B」「学校課題解決研究I・I

課題研究(必修4単位+選択4単位)

6 (5) 年制プログラム 飛び入学

小学校免許取得

長期休業期間中

土日祝日開講 長期履修制度

プログラム

他大学

現職教員

(標準修業年限

3年)

履修証明制度

14条特例

教育委員会からの現職教員派遣のみ (短期履修)

のこつのプログラム (教職大学院) 高度教職実践専攻

- 12 -

プログラム共通選択科目・他プログラムの選択科目

(4単位程度

(0~6単位)

学校実習科目(10単位,6単位まで免除)

教育課題発見実地研究」 教育課題解決実地研究」

[学校課題解決研究 I ·

課題研究 (4単位)

(学術論文として審査を希望する場合必修)

・指導主事・管理職・ミドルリーダー養成科目

高度教育研究方法論

プログラム別選択科目 (10単位以上)

・神奈川の教育課題3科目

1. 学校マネジメントプログラムの学校実習

学校マネジメントプログラムにおいては、自律的な学校運営と学校マネジメントを担うミドルリーダー(学校のミドルリーダー)、管理職候補、指導主事等の養成を主な目的とする。このため、学校実習科目「教育課題発見実地研究」(2単位)、「教育課題解決実地研究」(2単位)、「教職専門実地研究III」(6単位)(短期履修の場合は免除)を通じて、学校のミドルリーダー、管理職、指導主事等のいずれかを視野に入れた研究計画を立案し、それに対応した実習を実施する。

(1)目指す人材像

地域や学校における指導的役割を担う確かな指導理論と優れた実践力・応用力を有する学校のミドルリーダー、管理職候補(トップリーダー)、指導主事(エリアリーダー)等の養成を目指す。

(2)学校実習のカリキュラム上の位置付け

学校実習科目は、カリキュラム上とても重要な位置付けとなる。学校マネジメントプログラムの学修は、修士課程における個人的な研究とは異なり、学校や地域の課題を取り上げ、同僚性を構築あるいは活性化しながら、学校や地域のリーダーの立場に立って課題解決に取り組む。

学生は、「学校課題解決研究 I・II」等において、指導教員や他の学生と協働しながら、学校や地域の課題を発見・分析し、研究主題、研究計画等を企画立案したり、学校実習の内容を改善したりしていく。学校実習の指導や評価は、原則として、主指導教員と副指導教員、連携教授が連携しながら定期的に実習校を訪問し、その取組状況等を確認して行う。このように学校実習科目は、実習校と教職大学院との連携の下、実践と理論の往還・融合を支えるカリキュラムの中核として位置付けられている。

(3)学校実習のねらい

学校実習は、学生や原籍校等のニーズを踏まえた研究計画・実習内容を個別に調整する「オーダーメイドの学校実習」である。具体的には、次の①から③のとおり実施する。また、学校実習科目の免除が認められなかった学生においては、④の学校実習科目も実施する。

- ①学生は、学校のミドルリーダー、管理職候補、指導主事等のいずれかを視野に入れた研究主題、研究計画、実習内容、課題解決につながる取組の企画構想を主指導教員、実習校の管理職や担当教員等と調整して決定する。
- ②実習科目「教育課題発見実地研究」(2単位)では、学校や地域のリーダーの役割や業務等を踏まえて、学校や地域の教育課題を発見しそれに対応した研究主題、研究計画及び実習の構想を計画する。1・2タームで60時間(1日6時間×10日)。
- ③「教育課題解決実地研究」(2単位)では、見出した課題に対する解決方法を計画し、それに基づき具体的な実践に取組む。また、それらの実践についての成果や課題を評価する。 3・4・5タームで60時間(1日6時間×10日)。
- ④「教職専門実地研究Ⅲ」(6単位)では、自らの教育実践を振り返り、理論と結びつけながら、授業等の在り方を分析する。また、定期的に、授業の映像を持ち寄り、教員と学生でカンファレンスを行う。この他、校内に同僚性の基盤を作り、授業改善の取組の促進にも寄与できるようにする。年間 180 時間(1日6時間×30日)。

(4)連携協力校等について

- ①学校のミドルリーダー及び管理職候補については、学生が所属する原籍校を連携協力校とし、 学校の教育課題を研究主題に設定し、校長の理解と支援を前提に、連携協力校において学校 実習に取り組む。
- ②指導主事等については、学生が所属する教育委員会、教育センター等を連携協力校等とし、 地域の教育課題を探索する中で自己の研究主題を設定し、所属先の理解と支援を前提に、連 携協力校等において学校実習に取り組む。
- ③連携協力校等については、学生の入学から原則 2 年間、教職大学院からの教員の派遣等の支援を要請できる。短期履修による修了生は、教職大学院修了 1 年後の成果報告会における成果報告を行う。

(5)指導体制と評価について

- ①学校実習は、現職教員学生の教育課題に応じて研究主題を設定し、それを踏まえた実習を学校、教育委員会、教育センター等において実施する。
- ②学校実習の指導は、学生ごとに主指導教員と副指導教員、連携教授が巡回指導を行う。
- ③実習指導については、主指導教員が、実習校等実施責任者(校長、教育委員会担当者など) と綿密に連携を取りながら、課題発見・分析、課題解決の取組について、事前指導、実習中 の指導、実習後の指導、評価を行う。
- ④実習評価については、課題発見・分析、課題解決の取組の各セッションにおいて評価を行い、フィードバックする。e-ポートフォリオの記録、最終報告書などを基に、履修目標や「横浜国立大学教職大学院教員養成・育成スタンダード」に基づき、それらの目標が達成されていることを総合的に確認する。

(6)学校実習と課題研究との連携、理論と実践の往還による学びについて

①学校実習と「学校課題解決研究Ⅰ・Ⅱ | (各2単位) との連携した指導

必修科目である「学校課題解決研究 I・Ⅱ」(各 2 単位)においては、学校実習との連携を図り、教育課題の解決に資する研究の経過報告や振り返り等を行うとともに、それら実践の成果や課題を「教育実践研究報告書」としてとりまとめる。また 8 月には中間報告会及び翌年 2 月に研究成果報告会での報告を行う。

②理論と実践の往還による学びの確保

学校や地域の教育課題の解決に資する研究に当たり、共通科目、学校マネジメントプログラム向け選択科目等の履修との関連を重視し、それらの科目で得た理論知や学校実習で得た体験知を通じて、理論と実践の往還・融合による学びを確保する。

なお、学校のミドルリーダーの養成においては、学校や地域の教育課題の分析・考察に資する科目や同僚性の構築に資する科目、管理職候補者の養成においては、リーダーシップを発揮して学校の組織的な対応を強化することを目的とした科目をそれぞれ設定している。また、指導主事等の養成については、教育法規、行政研修、指導主事のシャドーイングに係る科目との設定や、教職大学院と教育委員会との連携事業である全県指導主事講習を開催するなど、学校実習と講義科目との連携を図り、理論と実践による学びを保障している。

(7)e ポートフォリオ 学びの記録について

実習の記録を実習日誌として「eポートフォリオ 学びの履歴」「実習記録」に記述する。ここでは、当日に行ったことや、教職大学院教員養成・育成スタンダードと照らし合わせて活動はどうであったかなどについて毎回の振り返りと実習科目ごとのリフレクションを行う。

(8)年間スケジュール

①短期履修の場合

*入学年度の3月を実習準備期間として、学校・教育委員会等との打ち合わせを行う。

【第1・2ターム(4~7月)】「教育課題発見実地研究(2単位)」

学校・地域の課題の発見・分析

- ・学校や地域の教育課題の発見と分析
- ・学校課題解決研究 I $(1\sim3$ ターム)で、学校・地域の課題の発見・分析を報告研究計画の設定
- ・教育課題に対応した研究主題、研究計画及び実習内容の設定
- ・中間報告会における発表の準備

【第3・4・5ターム(8~1月)】「教育課題解決実地研究(2単位)」

取組の企画構想と実践

- ・課題解決につながる取組を企画構想し、それに基づき具体的な取組の実践
- ・学校課題解決研究Ⅱ(4~6ターム)で、取組の企画構想と実践を報告
- ・成果報告会における発表の準備

【評価】

- ・実践の成果や課題の評価
- ・成果報告会における発表の準備
- ・教育実践研究報告書のとりまとめ
- ・次年度の計画の構想

ターム	1 ターム (4-5 月)	2ターム (6-7月)	3ターム (8-9月)	4 ターム (10-11 月)	5ターム (12-1 月)	6 ターム (2-3 月)
学校実習	教育課題発	発見実地研究 教育課題解決実地研究				
学校課題解 決研究	学校課題解決研		Z I	学校課題解決研!		
全体•共同 指導	構想発表	合同振返	中間報告	合同振返	合同振返	成果報告会

②現職教員学生のうち実習科目の免除が認められなかった場合(2年派遣)

1年次で「教職専門実地研究Ⅲ」を履修する。また、2年次で「教育課題発見実地研究」、「教育課題解決実地研究」を履修する。

(9)学校マネジメントプログラム「教育課題発見実地研究」「教育課題解決実地研究」確認リスト

	実施内容	確認欄
	・実習前(3月)に主指導教員,実習校,教育委員会等と打合せを行ったか	
±4/-r	・実習のおおまかな見通しを立てたか	
教	・インタビュー、資料分析など各種資料等を用いて教育課題を分析したか	
課題	・実習校、教育委員会等と相談し、学校・地域の教育課題を設定したか	
発	・学校課題解決研究 I で,教育課題の設定について報告したか	
完	・研究主題,研究計画及び実習の構想を計画したか	
教育課題発見実地研究	・課題解決に向けて具体的な設計(方法,メンバーなど)を行ったか	
	・研究の構想を元に,年間のスケジュールを立てたか	
(2 単 位)	・研究の構想を元に,実習を行ったか	
位	・研究主題,研究計画及び実習の構想をまとめ中間報告会の準備を進めたか	
	・各回実習後に e ポートフォリオの実習記録を提出したか	
	・実習終了後にeポートフォリオのリフレクションを提出したか	
	・課題解決につながる取組を計画したか	
教	・計画に基づき具体的な取組を実践したか	
課	・学校課題解決研究Ⅱで,具体的な取組の実践について報告したか	
題解	・取組の成果や課題について評価方法を検討し、実践したか	
決宝	・実践の成果や課題を評価したか	
教育課題解決実地研究	・実践の成果や課題を「教育実践研究報告書」にまとめたか	
一 究	・「教育実践研究報告書」をもとに、成果報告会の準備を進めたか	
$\widehat{2}$	・「教育実践研究報告書」をもとに、実習の自己評価をおこなったか	
(2単位)	・今年度の成果や課題をもとに、次年度の計画を立てたか	
	・各回実習後に e ポートフォリオの実習記録を提出したか	
	・実習終了後にeポートフォリオのリフレクションを提出したか	

2. 教科教育・特別支援教育プログラムの学校実習

学部卒業学生は、学校及び地域の教育課題解決に向けて、「教職専門実地研究 I(特別支援教育教職専門実地研究 I)」で単元を通した学習指導案を作成し、児童生徒の実態に応じて柔軟に授業実践ができるようになることや、校務分掌に関わりながら学校の業務内容を理解できるようになること、一日の学びを省察し理論と実践を結びつけながらの総合的な教師力の向上を図ることを目指す。「教職専門実地研究 II(特別支援教育教職専門実地研究 II)」では、担任教師としての自律した授業、学級経営、学年経営や校務分掌など学校運営に関する在り方や役割を考えることができ、若手教師として校内で中心的存在になることを目指すとともに、自らの実践や研究を通して実習校に還元することを目指す。

現職教員学生は、「教職専門実地研究IV」、「授業改善実地研究(特別支援教育授業改善実地研究)」で、自らの実習を記録し、理論と結びつけながら、学校課題(研究課題)解決に向けた授業等の在り方を分析することを目指す。また、校内の教師の関係性を構築し、校内に同僚性の基盤を作り、授業改善の取組を促進することにも寄与することを目指す。さらに、各地域の取組等を紹介し、大学教員とともに理論的な分析と考察を加え、その成果を提案の形等で、原籍校に還元できることを目指す。

(1)目指す人材像

①学部卒業学生

実践者として学び続けることと研究能力を身に付けることを通して,自ら教育実践上の問題を発見し,その解決に努めるとともに,学校運営の視点も自覚しながら,同僚性を支える一人として,新しい学校づくりに積極的に参画できる新人教員。

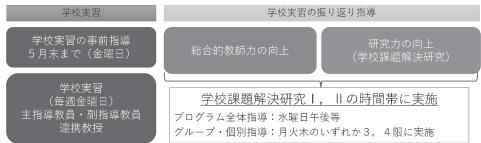
②現職教員学生

学校や地域が抱える教育課題を認識かつ分析し、適切な教育・研究資源を活用しつつ、教 員相互の同僚性を構築あるいは活性化して、課題解決のプロセスで学校や地域のリーダーと して活躍し、自らも成長する中核的中堅教員。

(2)学校実習のカリキュラム上の位置付け

確かな学力の育成と、それを保障する授業改善や多様なニーズに対応できる教育力を育成するために、実習校において責任ある当事者の一員として学校教育に参画し、教科・特別支援教育における授業力・実践力の向上だけでなく、学級経営や校務分掌についても経験し、教員の仕事の全体像を理解することを通して「総合的な教師力」の育成を図る。また、学校課題解決研究に向けた学校課題の発見と学校課題解決研究で検討した課題解決のための実践を行う。

学校実習の指導と学校課題解決研究の指導



各学生は、「学校課題解決研究 I・II」等において、指導教員や他の学生と省察しながら、学校や地域の課題を発見・分析したり、研究主題、研究計画等を企画立案したり、学校実習の内容を改善したりしていく。学校実習の指導や評価は、原則として、プログラムの教員が定期的に実習校を訪問し、その取組状況等を確認して実施する。このように学校実習科目は、実習校と教職大学院との連携の下、実践と理論の往還を支えるカリキュラムの中核として位置付けている。

(3)指導体制について

- ①学校実習の指導は、学部卒業学生および現職教員学生ごとに主指導教員と副指導教員、そして連携教授が連携して実施(ティームティーチング)する。その際、可能な限り研究者教員と実務家教員によるペアにより共同して参画することとなる。
- ②実習指導は、主指導教員が、実習校等実施責任者(校長、教育委員会担当者など)及び実習校等指導教員と綿密に連携をとりながら、事前指導、実習中の指導、実習後の指導、評価を行う。その際、主指導教員、副指導教員、連携教授が連携して実施する。
- ③学校実習校との打ち合わせの具体例
 - ・所属する学年学級等 ・実習の進め方 ・学生の自己課題・具体的な活動の計画
 - ・給食やスクールランチ等の有無 ・控え室・靴箱・ロッカー等 ・その他必要な事項

(4)e ポートフォリオ 学びの記録について

実習の記録を実習日誌として「e ポートフォリオ 学びの履歴」、「実習記録」に記述する。 ここでは、当日に行ったことや、「横浜国立大学教職大学院教員養成・育成スタンダード」と 照らし合わせて活動はどうであったかなどについてリフレクションを行う。

(5)学校実習の指導と評価について

①学生への指導は、総合的な教師力の向上、課題発見・分析、課題解決の取組において月1、 2回程度の巡回指導を行う。なお、1年次の1タームにかけて学校実習の事前指導を行う。

	事前指導の修学内容	備考
1	ガイダンス 学校実習における基本的な留意事項	
2	学校実習の具体についての理解 (倫理面を含む)	
3	学校実習と課題解決研究の具体 1	
4	学校実習と課題解決研究の具体 2	
5	学校実習計画の作成(指導教員と一緒に)	
6	実習校での打ち合わせ等	実習校訪問予定
7	授業実践の参観及び、教師としての心構えの理解	学校視察予定
8	授業実践の分析とまとめ	

②学部卒業学生に対しては、総合的な教師力の向上および課題発見・分析、課題解決の取組、現職教員学生に対しては、課題発見・分析、課題解決の取組の各セッションにおいて評価を行い、フィードバックする。e-ポートフォリオの記録、最終報告書などを基に、履修目標や「横浜国立大学教職大学院教員養成・育成スタンダード」に基づき、それらの目標が達成されていることを総合的に確認する。

(6)学校実習と課題研究との連携、理論と実践の往還による学びについて

学校実習は、実習校において年間を通じて行うとともに、大学における合同振返や中間報告会、成果報告会などで自らの実践を振り返りながら実施する。

①学部卒業学生

- ・「教職専門実地研究 I (特別支援教育教職専門実地研究 I)」(1年次), 5単位 教科・特別支援教育における授業力と総合的な教師力の向上に取り組む。年間 150 時間 (1日6時間×25日)
- ・「教職専門実地研究 II (特別支援教育教職専門実地研究 II)」(2年次),5単位 総合的な教師力と課題解決研究のテーマに基づく授業実践・改善力等に取り組む。年間150時間 (1日6時間×25日)。また学校課題解決研究 A・Bの履修と関連させてアクションリサーチ的 な実践研究等(修士論文相当)に取り組むことも可能である。

学校実習の振り返り例(学部卒業学生)

1年次 教職専門実地研究 |

	1ターム (4-5月)	2ターム (6-7 月)	3 <i>ターム</i> (8-9月)	4 <i>ターム</i> (10-11月)	5ターム (12-1月)	6ターム (2-3月)
連携協力校	連携協力校 と打ち合わせ					
大学 (全体指導)	事前指導		中間 報告会			成果 報告会
大学 (グループ別)		合同 振返		合同振返	合同 振返	

2年次 教職専門実地研究 ||

	1 <i>ター</i> ム (4-5月)	2 <i>ター</i> ム (6-7月)	3 <i>ター』</i> (8-9月	300			Company of the Compan		6夕· (2-	ーム 3月)
連携協力校		→	-							
大学 (全体指導)			中間報告会						成果 報告会	
大学 (グループ別)		合同 振返			合振			合同振返		

②現職教員学生

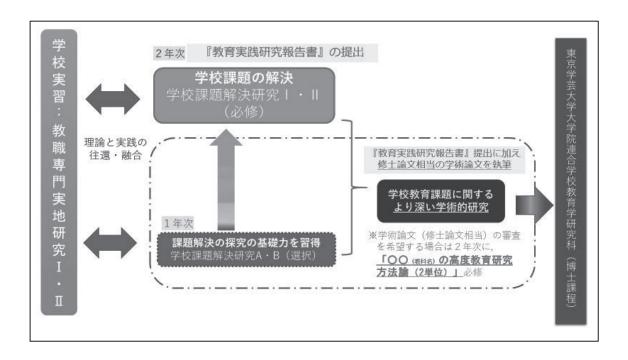
- ・「教職専門実地研究IV」(1年次),8単位 ※教育研究業績により免除可定期的な授業観察及び参与を通して、授業改善に関わる課題を明確化し、観察及び学習成果を元に、指導計画、指導案の作成、授業実践等を行い、リフレクションを行う。自らの実習を記録し、理論と結びつけながら、学校課題(研究課題)解決に向けた授業等の在り方を分析する。年間、240時間(1日6時間×40日)
- ・「授業改善実地研究(特別支援教育授業改善実地研究)」(2年次),2単位 自らの実習を記録し、理論と結びつけながら、学校課題(研究課題)解決に向けた授業等の在り 方を分析する。また、校内の教師の関係性と同僚性の基盤の構築と、授業改善の取組促進への寄 与を目指した実習を実施する。年間60時間(1日6時間×10日)

③附属学校教員特別プログラムの学校実習

・「教職専門実地研究V」 10単位 ※教育研究業績により免除可 定期的な授業観察及び参与を通して、授業改善に関わる課題を明確化し、観察及び学習成果を元 に、指導計画、指導案の作成、授業実践等を行い、リフレクションを行うなど総合的な教師力お よび実践的な研究力を目指す。年間300時間(1日6時間×50日)

(7)2年間スケジュール(概要)

必修科目である教職専門実地研究 I (特別支援教育教職専門実地研究 I),及び,教職専門実地研究 II (特別支援教育教職専門実地研究 II)を前提とする「教科教育・特別支援教育プログラムの学校実習(2年間)」と研究活動の融合,つまり,そのアクションリサーチ(Action Research)が重視される。



本学教職大学院は、博士人材の育成を東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科博士課程との接続を考慮して「日本型 Ed.D.」も見据えた指導を進めていく。そこで、学術論文指導の体制整備の観点から、これまで説明した学校実習を前提としつつ「教育実践報告書」の作成に繋がる「学校課題解決研究 I・II」(必修)に接続する科目として、「学校課題解決研究 A・B」を選択科目として設定する。また、修士論文相当の論文作成に関連して、2年次に「○○の高度教育方法論(○○は各教科)」を開講するなど、本学教職大学院の特色ある「学校実習・実践研究」指導を確立している。

(8)教科・教育プログラム「教職専門実施研究Ⅰ・Ⅱ (特別支援教育教職専門実施研究Ⅰ・Ⅱ)」確認リスト

		実施内容	確認欄
	教科	・6月から7月の期間に実習校で授業参観、授業実践を行ったか	
		・3月までの期間に1単元の授業実践を行ったか	
教職	領域の	・1 単元の授業実践の際,1 単元の指導計画を作成したか	
専	授業	・本時の学習指導案を作成したうえで研究授業を2時間以上行ったか	
門宝	領域の授業実践	・研究授業を行った際には、その授業の研究協議会を行ったか	
地	カ	・各回実習後に e ポートフォリオの実習記録を提出したか	
教職専門実地研究	※ 1	・実習校の実態を踏まえた課題を発見し、課題解決研究のテーマにつなげたか	
I	※ 2	・小学校では、すでに実践した1単元授業以外の教科で、指導計画案を作成した うえで、1単元授業を実践したか	
(特別支援教育教職専門実地研修		・中学校・高等学校では、すでに実践した学年以外で、指導計画を作成したうえで、所持する免許教科の1単元授業を実践したか	
援	بمدر	・学級/学年経営/他の総合的な教師力について、実習校と打ち合わせを行ったか	
教育	学級/学	・「道徳(高等学校除く)」「総合的な学習(探究)の時間」「特別活動」の授業 いずれかを1時間以上,学習指導案を作成したうえで,実践したか	
教 職	/学年経	・全日指導を3日以上行ったか	
専	営	・職員会議・学年会議・教科会議等に参加したか	
実	他	・実習校担当者と相談して、校内分掌を担当したか	
地	の総	・クラブ活動や委員会活動、部活動の指導に加わったか	
研 修	合的	・実習校において主指導教員等の訪問指導(授業参観等)を受けたか(5日以上)	
Ĭ	な教	・実習校で150時間以上の実践を積み,実習を行った日は実習日誌を記入したか	
	師力	・各回実習後に e ポートフォリオの実習記録を提出したか	
	/ 3	・実習終了後に e ポートフォリオのリフレクションを提出したか	
教職	学級	・学級経営や学年経営,他の総合的な教師力について,実習計画を立て,実習校 と打ち合わせを行ったか	
美地研究	学年経営	・小学校では、すでに実践した1単元授業以外の教科で、指導計画案を作成した うえで、1単元授業を実践したか	
職実地研究実地研究Ⅱ(特別支援教育教職専門実地研究Ⅱ)	営・他	・中学校・高等学校では、すでに実践した学年以外で、指導計画を作成したうえで、所持する免許教科の1単元授業を実践したか	
究Ⅱ(は	の総合	・「道徳(高等学校除く)」「総合的な学習(探究)の時間」「特別活動」の授業 いずれかを1時間以上、学習指導案を作成したうえで、実践したか	
別	的な	・全日指導を3日以上行ったか	
支援	教師	・職員会議・学年会議・教科会議等に参加したか	
教育	力	・実習校担当者と相談して、校内分掌を担当したか	
教職		・クラブ活動や委員会活動、部活動の指導に加わったか	
専門		・実習校において主指導教員等の訪問指導(授業参観等)を受けたか(5日以上)	
実		・実習校で150時間以上の実践を積み、実習を行った日は実習日誌を記入したか	
一研		・各回実習後に e ポートフォリオの実習記録を提出したか	
1 五	\ a .	・実習終了後にeポートフォリオのリフレクションを提出したか	
	※ 1	・各自の課題解決研究のテーマに基づき、授業実践等を行ったか	

- ※1 課題解決研究のテーマに基づく授業実践・改善力等
- ※2 より一層の授業実践力(アドバンス項目)

学校実習では、実習校の状況に応じて、教科指導以外にも例えば以下のような様々な活動へ積 極的に参加することが望ましい。

□T2 として授業参加	□支援の必要な児童	重生徒への個別指導	□児童生徒指導等の補助
□活動日の部活動指導	□学習ノートの確認	20・コメントの記載	□備品整理等の活動
□校務分掌に関わる点核	食作業や清掃活動	□補欠授業(継続流	舌動は不可)

3. 結語(養成・研修の一貫化に向けた教職大学院の深化)

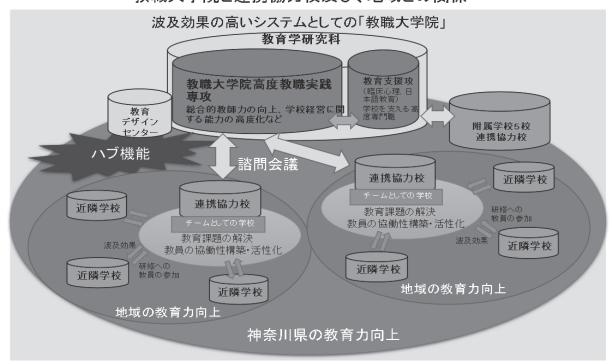
本教職大学院が達成すべき成果(養成・研修の一貫化に向けた教職大学院の深化),及び,「波 及効果の高いシステムとしての教職大学院」の在り方は、概して以下の3点に整理できる。

- (1)年間の学習によって、高度な専門性を習得した「高度専門職人材」の育成を実現することで、神奈川県内の学校改善・授業改善に貢献する。 【高度専門職人材の育成拠点】
- (2)課題研究と実習科目との連動によって、実践的有用性の高い「先端知識を生成」し、その知識を、教職大学院研究発表大会や学会において報告し、国内外及び、地域社会に還元する。 【先端知識の生成拠点】
- (3)神奈川県内各教育委員会及び各教育センターとの連携協働を通して、神奈川県内の様々な「教育改革」課題を共同で探究し、改革案を提言する。 【神奈川の教育改革拠点】

これまで全国では 54 大学の「教職大学院」が設置されて、令和2年度段階でそれらの半数以上の教職大学院を含む教育学研究科が、教科教育・特別支援教育等の定員を移行しての拡大、或いは、修士課程を全面廃止して「教職大学院」への一本化等による組織の再編を行った。つまり、「教職大学院」における教師教育・教職研修は新たな充実期を迎えたと総括できる。

そこで、「理論と実践の融合・往還」の視点から、全国の主要な「教職大学院」の各科目(静的)と実習(動的)カリキュラム、及び、それらの具体的な指導方法を開発することは喫緊の課題となる。よって、「養成・研修の一貫化に向けた教職大学院の深化」の観点からも、「県下教育委員会、校長会・教頭会等との密接な連携協力を推進し、教育研究を一層発展させ、地域の教員養成の中核としての役割を果たす」ことを主眼とする教職大学院の「学校実習」は、今後とも、更なる研鑽と発展・拡充が期待されている。

教職大学院と連携協力校及び、地域との関係



資料編

履修目標

○教育課題発見実地研究

現職教員学生

学校や地域における教育実践上の課題をインターン、シャドーイング等によって把握できる。

学校や地域における教育実践上の課題を、インタビューや様々なデータを用いて分析できる。

○教育課題解決実地研究

現職教員学生

学校や地域における教育実践上の課題を抽出し、課題解決のための実践と評価ができる。

学校や地域における教育実践上の課題を抽出し、課題解決のための改善案,企画案の作成、実施と 評価を実施できる。

〇教職専門実地研究 I

学部卒業学生

単元を通した指導計画を立案することができる

児童生徒の実態を踏まえた学習指導案を作成できる

児童生徒の姿に応じて柔軟に授業実践ができる

教材の工夫やICTを活用した授業実践ができる

毎時間の児童生徒の学びを省察し、理論と実践を結び付けながら授業改善できる

単元の目標、本時の目標を踏まえた評価ができる

○教職専門実地研究 Ⅱ

学部卒業学生

健康管理に留意し、担任教師としての基本的な資質を身につけることができる

担任教師として学級経営を行うことができる

教育相談やいじめの対応を含む、児童・生徒指導を行うことができる

若手教師として学年経営に関わることができる

校務分掌について理解し、関わることができる

教科経営を行うことができる(中学校, 高等学校の場合)

授業と学級経営、それぞれを関連づけながら実施することができる

〇特別支援教育教職専門実地研究 I

学部卒業学生

障害の特性の理解とその指導法について理解できる

効果的なチームティーチングが実践できる

児童生徒の実態把握とアセスメントが実施できる

個別の指導計画の作成・実施・評価・改善の PDCA サイクルについて理解できる

○特別支援教育教職専門実地研究 Ⅱ

学部卒業学生

健康管理に留意し、担任教師としての基本的な資質を身につけることができる

担任教師として学級経営を行うことができる

教育相談やいじめの対応を含む、児童・生徒指導を行うことができる

若手教師として学部経営に関わることができる

校務分掌について理解し、関わることができる

関係諸機関との連携について理解し、関わることができる

〇授業改善実地研究

現職教員学生

理論と実践の往還から教材開発,カリキュラム改善,授業研究の方法等の取組の課題を抽出しようとしている

率先して校内の教師と協働して授業改善に取り組もうとしている

インタビューや様々なデータを用いながら授業の課題を明らかにしようとしている

若手のみならず校内の教師の関係性を構築し、校内に同僚性の基盤を作り、授業改善の取組を促進 しようとしている

〇特別支援教育授業改善実地研究

現職教員学生

理論と実践の往還から個々の児童生徒の障害の状態に応じた教材開発,カリキュラム改善,授業研究の方法等の取組の課題を抽出しようとしている

率先して校内の教師と協働して授業等の改善に取り組もうとしている

インタビューや様々なデータを用いながら授業等の課題を明らかにしようとしている

若手のみならず校内の教師の関係性を構築し、校内に同僚性の基盤を作り、授業等の改善の取組を 促進しようとしている

スタンダード対応表(https://pste.ynu.ac.jp/wp-content/uploads/ikusei_std.pdf)

	H		教職大学院教員養成・育成スタン	学校実習科目											
			項	マネ免除教員対象	マネ免除 教員対象	教科・特 支対象	教科・特 支対象	教科・特 支対象	数科・特 支対象	マネ免除科目	教科・特支 免除科日	附属免除 科目	教科・特 支免除教 員対象	教科・特 支免除額 員対象	
領域		観点	A ストレートマスター	B スクールリーダー (現職教員)	教育課題発見実地研	教育課題解決実地研	教職専門実地研究Ⅰ	実地研究 I (特) 東地研究 I (特)	教職専門実地研究Ⅱ	実地研究 II (特)	教職専門実地研究Ⅲ	敷職専門実地研究IV	教職専門実地研究V	授業改善実地研究	実地研究 (特)
	1	豊かな人間性	様な考え方や立場を受けとめること	広い視野・高い人権意識を持ち、多 様な考え方や立場を受けとめること	究	究		P		P ¹					*
	2	教職への熱意		命と職務内容、児童生徒に対する責			0	0	0	0	0	0	0		
	3	コミュニケーション能力	に対する責務を理解している。 自己を積極的に表現するとともに、 他者を共感的に理解し、相互に良好 な関係を築くことができる。	務を理解している。 コミュニケーションの重要性を理解 し、良好なコミュニケーションを通 して自他の向上を図ることができ る。		0	0	0			0	0	0	0	0
I 教員に求 められる 基盤的資	4	組織人としての自覚	理解し、他の教職員と連携、協働し て職務を遂行する姿勢を持ってい る。	職場における同僚性の大切さと、それを高めていく方策にあいて、名察し、他の教職員と連携、協働して職務を遂行することができる。 変化に対応して学び続ける向上心を	0	0			0	0	0	0	0	0	0
質	5	省察・研鑽・探究力	ようとしている。 教職員として必要な法令や規則を理	持ち、常に自らを振り返り、課題を 見つけて改善し、成果を教育実践に 活かすことができる。 教職員として必要な法令や規則を遵											
	6	コンプライアンス・ 服務	ことが求められる教員としての、コ ンプライアンスの重要性や服務規律 の厳格さについて理解している。	守することを自覚し、教員として適切なコンプライアンスや服務を実践 切なコンプライアンスや服務を実践 するとともに、他の教員に指導・助 言するととができる。 自分の健康はもとより、同僚の健康											
	7	健康管理 数官関連法規・学習	を認識し、規則正しい生活を送って いる。	にも配慮し、働きやすい職場環境の 実現に努力している。	0	0								0	0
	1	教育関連法規・学育 指導要領についての 理解	教育基本法や学校教育法など、主な 教育関連法規の趣旨や内容を理解し ている。	教育関連法規・学習指導要領・学習 指導要領解説の内容、教育改革の動 向について理解している。 教育改革の動向や学習指導要領の趣											
	2	教育課程	学校で行われる教育課程編成について、各種法規や学習指導要額と結び 付けて理解している。	旨・内容を踏まえ、地域の特性や学 校の教育資源、児童生徒の実態など を考慮して、学校の教育課程につい てのモデル案を示すことができる。											
	3	年間指導計画	年間指導計画について、学習指導要 領や学校の教育課程と結び付けて理 解している。	学習指導要額に基づき、学習内容の 系統性や他教科等との関連、学校の 教育資源の活用など考慮しなが ら、教科等の年間指導計画を編成す ることができる。											<u> </u>
	4	学習指導案の作成	学習指導案に求められるべき基本的 な内容について理解し、作成するこ とができる。	他の教師からの求めに応じ、学習指 導案の作成や授業展開の方法につい て、適切な助言を行うことができ る。			0	0			0	0	0		
Ⅱ 教職に関 する理 解・教科	5	授業実践	をもとに、必要に応じて他の教職員	課題解決型の学習や協働的な学びなどをデザインし、必要に応じて他の教職員と連携しながら、実践することができる。			0	0			0	0	0		
等の指導と評価	6	教材開発	ることができる。	促す教材や指導効果の高い教材を開 発したりすることができる。			0	0			0	0	0		
	7	指導と一体化した学 習評価	に両者の一体化について理解すると	具体的な学習指導案において目標や 評価規準を設定するとともに、具体 的な指導のあり方を提案することが できる。			0	0			0	0	0		
	8	授業評価と授業研究 の推進	た技業を視点を決めて評価すること ができる。	自他の授業を分析し、その長所と改 善点とを指摘したり、自らがリー ダーとなって研究を推進することが できる。					0	0				0	0
	9	横断的・総合的な学 習	横断的・総合的な学習(グローバル 教育やキャリア教育、人権教育を含 む)を計画・実践することができ る。	クロスカリキュラムの理論や方法に ついて知り、学校全体での取組を コーディネートすることができる。 ICT活用、情報教育について、そ											
	10	教育の情報化	学習指導においてICTを適切に活用することができるとともに、その活用効果について理解している。	101 宿用、情報教育について、で の効果と課題を理解するとともに、 学校全体の情報化を推進することが できる。 教科等の専門的知識を活かして、課											
	11	教科等の専門知識	教科等の専門的知識を活かして授業 を計画・実践することができる。 児童生徒の発達段階を理解したうえ	題解決型の学習や協働的な学びなどをデザインし、実践することができる。 児童生徒を取り巻く環境を的確に捉											
	1	児童生徒の理解	で、一人一人の児童生徒を積極的に理解しようとしている。	元文、一人一人の理解をしようとしている。 具体的な事例をもとに、個と集団の											
	2	児童生徒の指導	個や集団を指導するための手立てを 理解し、実践しようとしている。	条件的な事例をもこに、同じ集団の 関係、成育歴の及ぼす影響などにつ いても考察し、指導法を提案した り、必要に応じて指導のコーディ ネートをしたりすることができる。					0	0				0	0
Ⅲ 児童生徒	3	学年・学級経営	学級担任の役割や仕事内容、学年・ 学級経営で大切なことについて理解 している。	文献やフィールドワークなどを通し て自分の学年・学級経営について省 察し、継続すべき点や改善すべき点 をまとめることができる。					0	0				0	0
指導	4	支援教育(インク ルーシブ教育・特別 支援教育)		特別な支援を必要とする児童生徒の 実態を把握し、指導の充実を図るた めの機案を行うことができる。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	問題行動への対応	MFC CV-0.	問題行動の背景を捉え、具体的な対応方法を考えたり、対応に当たって配慮すべき点を説明したりすることができる。											
	6	教育相談	教育相談の重要性を理解し、心理や 福祉等の外部専門家との連携・協働 を含む教育相談の具体的な方法につ いて学んでいる。	実際に心理や福祉等の外部専門家と の連携・協働を効果的に活用して教 有相談を行うことができ、過去の事 例を分析したり改善点を検討したり している。											
	1	教育行政・教育制度	以 月 的 及 が 土 よるじた 月 永 (産業年に)	教育委員会等の特色ある取組につい て理解するとともに、これからの時 大田があるが、大田の時からのでは 、新しい教育制度の必要性や課題、今後の方向性について考えてい											1
	2	学校組織マネジメン ト	組の重要性を理解し、教育活動に協 働的に取り組むことができる。	る。 学校組織におけるマネジメントの重 要性を理解するとともに、その中核 となって推進することができる。	0	0									
	3	カリキュラム・マネ ジメント	大切にし、学校教育の効果を評価し て改善しようとしている。	教科を越えた連携と地域との連携を 大切にし、学校教育の効果を評価し て改善することができる。											
	4	経営ビジョンの構築 と学校評価	学校のグランドデザイン作成やその 評価の重要性について理解してい る。	学校経営についてのビジョンを構想 してグランドデザインを作成した り、その評価・改善についての方策 を考えたりすることができる。											
IV 学校マネ ジメント	5	人材育成	OJTとOFF-JTの、それぞれ の特徴について理解し、積極的に活 用しようとしている。	OJTの意義や方法を知り、それら を活用して人材を育成したり、チームとしての学校づくりを推進したり することができる。	0	0									
	6	メンタリング	メンタリングの重要性と、その方 法・技術について理解している。	同僚教員、特に経験の浅い教員に対 し、メンターとしてメンタリングを 行うことができる。											
	7	学校教育における課 題	としている。	最近の教育課題とその解決策について、分かりやすく説明したり、自分の考えを述べたりすることができる。											
	8	学校外組織との連 携・協働	学校と保護者・地域・他の教育機関 や専門家等と連携・協働することの 重要性を理解している。	保護者・地域・他の教育機関や専門 家等との連携・協働の重要さを説明 しることができる。 危機を来然に防ぐためリスクマネジ											
	9	危機管理	学校事故等の事例を学ぶとともに、 リスクマネジメントや危機管理の重 要性を理解している。	危機を未然に助くためリスクマネシ メントや危機管理の具体的な方策を 考え、勤務校において提案すること ができる。											1

スケジュール表

一ス 0 0 第1回提出:令和4年8月○日 第2回提出:令和5年2月○日 印 回数 実習日 訪問数員 出勤時間 退勤時間 」 スタンダード	学籍番号		0		今和	4年度:	学校	実習	3 i7:	緑-	- 瞖	表		Ì	担当	3	習担当
Mix	氏名												a		£ρ		٤D
図	J-X		<u> </u>	ا ل	新 1 回旋工	· 7/44 44 4	5 ЯОЦ	- S- Z- E-	duer.	TIAN .	2 4 2	яог	<u>'</u>	L		\perp	
0.00	回数	実習日	訪問数員	出勤時間	退勤時間	J					スタ	ンダー	- F				
2	(51)	○月○日(■)	〇〇先生	8:30	16:30	8:00	1 2	3	4 5	6	7	8 9	10	11	12	13 14	3 1
1	1																
Color	<u>2</u> 3		-					++		Н		+		Н	-	+	
C	4			0:00	0:00	0:00											
	<u>5</u>		-					++		\vdash	-	+	-	\vdash	-	+	
	7			0:00	0:00	0:00											
10	<u>8</u>		-					++		\vdash		+	-	Н	_	+	
10				0:00	0:00	0:00											
13			-					\vdash		\vdash	_	+	_	Н	\dashv	+	
15	<u>13</u>			0:00	0:00	0:00											
16																	
18	<u>16</u>			0:00	0:00	0:00											
19														H	-		
21	<u>19</u>			0:00	0:00	0:00											
221											\blacksquare						
24																\pm	
25																\perp	
21								+		H		+		H	_	+	
23	<u>26</u>																
30	21 28		-					++		\vdash		+		\vdash	_	+	
31																\perp	
32			-					++		Н	+	+	\vdash	Н	\dashv	+	
34	<u>32</u>									\Box					_	\perp	
36			-					++		\vdash		+		\vdash	-	+	
37 38 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 40 40 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 41 0.00 0.00																_	
39			-					++		\vdash		+		\vdash	-	+	
4.0 0:00 0:00 0:00 0:00 4.1 0:00 0:00 0:00 0:00 4.2 0:00 0:00 0:00 0:00 4.3 0:00 0:00 0:00 0:00 4.4 0:00 0:00 0:00 0:00 4.6 0:00 0:00 0:00 0:00 4.7 0:00 0:00 0:00 0:00 4.9 0:00 0:00 0:00 0:00 50 0:00 0:00 0:00 0:00 51 0:00 0:00 0:00 0:00 52 0:00 0:00 0:00 0:00 53 0:00 0:00 0:00 0:00 54 0:00 0:00 0:00 0:00 55 0:00 0:00 0:00 0:00 55 0:00 0:00 0:00 0:00 55 0:00 0:00 0:00 0:00 55 0:00 0:00 0:00 0:00 55																+	
42 0.00 0.00 0.00 0.00 43 0.00 0.00 0.00 0.00 45 0.00 0.00 0.00 0.00 46 0.00 0.00 0.00 0.00 48 0.00 0.00 0.00 0.00 49 0.00 0.00 0.00 0.00 51 0.00 0.00 0.00 0.00 52 0.00 0.00 0.00 0.00 53 0.00 0.00 0.00 0.00 54 0.00 0.00 0.00 0.00 55 0.00 0.00 0.00 0.00 55 0.00 0.00 0.00 0.00 55 0.00 0.00 0.00 0.00 56 0.00 0.00 0.00 0.00 57 0.00 0.00 0.00 0.00 59 0.00 0.00 0.00 0.00 60 0.00 0.00 0.00 0.00 61 0.00 <td></td> <td></td> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>++</td> <td></td> <td>Н</td> <td></td> <td>+</td> <td></td> <td>Н</td> <td>+</td> <td>+</td> <td></td>			-					++		Н		+		Н	+	+	
43 0.00 <																	
45 0.00 <										Н				H	_	+	
46 0.00 0.00 0.00 0.00 47 0.00 0.00 0.00 0.00 48 0.00 0.00 0.00 0.00 50 0.00 0.00 0.00 0.00 51 0.00 0.00 0.00 0.00 52 0.00 0.00 0.00 0.00 53 0.00 0.00 0.00 0.00 54 0.00 0.00 0.00 0.00 55 0.00 0.00 0.00 0.00 56 0.00 0.00 0.00 0.00 57 0.00 0.00 0.00 0.00 58 0.00 0.00 0.00 0.00 60 0.00 0.00 0.00 0.00 61 0.00 0.00 0.00 0.00 62 0.00 0.00 0.00 0.00 63 0.00 0.00 0.00 0.00 64 0.00 0.00 0.00 0.00 65 0.00 <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>\Box</td> <td></td> <td>Н</td> <td>_</td> <td>+</td> <td></td> <td></td> <td>_</td> <td>+</td> <td></td>								\Box		Н	_	+			_	+	
48 0.00 0.00 0.00 0.00 50 0.00 0.00 0.00 0.00 51 0.00 0.00 0.00 0.00 52 0.00 0.00 0.00 0.00 54 0.00 0.00 0.00 0.00 55 0.00 0.00 0.00 0.00 56 0.00 0.00 0.00 0.00 57 0.00 0.00 0.00 0.00 59 0.00 0.00 0.00 0.00 60 0.00 0.00 0.00 0.00 61 0.00 0.00 0.00 0.00 62 0.00 0.00 0.00 0.00 63 0.00 0.00 0.00 0.00 64 0.00 0.00 0.00 0.00 65 0.00 0.00 0.00 0.00 65 0.00 0.00 0.00 0.00 61 0.00 0.00 0.00 0.00 62 0.00 <td>46</td> <td></td> <td></td> <td>0:00</td> <td>0:00</td> <td>0:00</td> <td></td>	46			0:00	0:00	0:00											
49 0:00 0:00 0:00 0:00 50 0:00 0:00 0:00 0:00 51 0:00 0:00 0:00 0:00 52 0:00 0:00 0:00 0:00 53 0:00 0:00 0:00 0:00 55 0:00 0:00 0:00 0:00 56 0:00 0:00 0:00 0:00 57 0:00 0:00 0:00 0:00 58 0:00 0:00 0:00 0:00 59 0:00 0:00 0:00 0:00 60 0:00 0:00 0:00 0:00 61 0:00 0:00 0:00 0:00 62 0:00 0:00 0:00 0:00 63 0:00 0:00 0:00 0:00 64 0:00 0:00 0:00 0:00 65 0:00 0:00 0:00 0:00 66 0:00 0:00 0:00 0:00 66 0:00 <td></td> <td>-</td> <td></td> <td></td>															-		
51 0:00 0:00 0:00 0:00 52 0:00 0:00 0:00 0:00 53 0:00 0:00 0:00 0:00 54 0:00 0:00 0:00 0:00 55 0:00 0:00 0:00 0:00 57 0:00 0:00 0:00 0:00 59 0:00 0:00 0:00 0:00 60 0:00 0:00 0:00 0:00 61 0:00 0:00 0:00 0:00 62 0:00 0:00 0:00 0:00 63 0:00 0:00 0:00 0:00 64 0:00 0:00 0:00 0:00 65 0:00 0:00 0:00 0:00 66 0:00 0:00 0:00 0:00 67 0:00 0:00 0:00 0:00 68 0:00 0:00 0:00 0:00	<u>49</u>			0:00	0:00	0:00											
52 0:00 0											1						
53 0.00 0.00 0.00 0.00 54 0.00 0.00 0.00 0.00 55 0.00 0.00 0.00 0.00 56 0.00 0.00 0.00 0.00 58 0.00 0.00 0.00 0.00 59 0.00 0.00 0.00 0.00 60 0.00 0.00 0.00 0.00 61 0.00 0.00 0.00 0.00 62 0.00 0.00 0.00 0.00 63 0.00 0.00 0.00 0.00 64 0.00 0.00 0.00 0.00 65 0.00 0.00 0.00 0.00 66 0.00 0.00 0.00 0.00 67 0.00 0.00 0.00 0.00	<u>52</u>			0:00	0:00	0:00											
55 0:00 0:00 0:00 0:00 56 0:00 0:00 0:00 0:00 57 0:00 0:00 0:00 0:00 58 0:00 0:00 0:00 0:00 60 0:00 0:00 0:00 0:00 61 0:00 0:00 0:00 0:00 62 0:00 0:00 0:00 0:00 63 0:00 0:00 0:00 0:00 64 0:00 0:00 0:00 0:00 65 0:00 0:00 0:00 0:00 66 0:00 0:00 0:00 0:00 67 0:00 0:00 0:00 0:00 68 0:00 0:00 0:00 0:00	<u>53</u>										\perp		F		\blacksquare	F	
57 0:00 0	<u>55</u>			0:00	0:00	0:00											
59 0:00 0:00 0:00 59 0:00 0:00 0:00 60 0:00 0:00 0:00 61 0:00 0:00 0:00 62 0:00 0:00 0:00 63 0:00 0:00 0:00 64 0:00 0:00 0:00 65 0:00 0:00 0:00 66 0:00 0:00 0:00 67 0:00 0:00 0:00 58 0:00 0:00 0:00																+	
60 0 0:00 0:00 0:00 0:00 0:00 61 0:00 62 0:00 0:00 0:00 0:00 0:00 0:00 0	<u>58</u>			0:00	0:00	0:00					1						
61 0:00 0:00 0:00 0:00 62 63 0:00 0:00 0:00 0:00 0:00 0:00 64 0:00 0:00																	
63 0:00 0:00 0:00 0:00 64 0:00 0:00 0:00 0	<u>61</u>			0:00	0:00	0:00											
64 0:00 0:00 0:00 0:00 65 65 0:00 0:00 0:0														H	\perp		
66 0:00 0:00 0:00 0:00 67 0:00 0:00 0:00	<u>64</u>			0:00	0:00	0:00											
67 0:00 0:00 0:00 68 0:00 0:00 0:00 0:00 88								H						H	\perp		
68 0:00 0:00 0:00				0:00	0:00	0:00											
0.001 0.001 0.001 0.001 0.001	<u>68</u>			0:00	0:00							F				T	
70 0:00 0:00 0:00 実習時間合計 0:00				0:00	0:00												

実習記録(計画及び振り返り)

学籍番号 氏名 コース	0 実習校名	0	1		0日
コース	9/20/0		入校時刻	退校時刻	実習時間
	0	0			0:00
	⇒実習一覧に戻る				
	実習の予定を記述する				
実習予定					
	学校実習の振り返りを記述する				
#= U\E U					
振り返り					
	写真や図などがある場合は、	写古	や図などが	ある場合	ı±
	張り付ける		付ける	いる勿口	10.
* 本日の実	習で、該当するスタンダードを一つ選んで	ください。			
スタンダード					

出勤簿

() 学籍番号 名前

日付	/	/	/	/	/	/	/
(曜日)	()	()	()	()	()	()	()
押 印 欄							
日付	/	/	/	/	/	/	/
(曜日)	()	()	()	()	()	()	()
押 印 欄							
日付	/	/	/	/	/	/	/
(曜日)	()	()	()	()	()	()	()
押印欄							
日付	/	/	/	/	/	/	/
(曜日)	()	()	()	()	()	()	()
押 印 欄							
日付	/	/	/	/	/	/	/
(曜日)	()	()	()	()	()	()	()
押 印 欄							

(様式1)

横浜国立大学大学院教育学研究科

高度教職実践専攻長

宣誓書

「守秘義務及び,個人情報等の取扱いに関する遵守すべき事項」及び「研究倫理に関する遵守すべき事項」を確認し,その趣旨を理解し,大学院生として細心の注意を払うことを誓います。

20●年 月 日

研究科名

専 攻 名

学籍番号

氏 名

20●●年 ●月 ●日

●●●●学校

学校長 殿

横浜国立大学大学院教育学研究科 高度教職実践専攻(教職大学院)専攻長

実習に関わる撮影に関するお願い

教職大学院では、タブレット端末やデジタルカメラ、ビデオなどを用いて、実習の様子を記録し、 院生の振り返りに用いることを計画しております。撮影対象は、授業や学級経営の様子や行事、教員 同士の研修場面など、実習中の活動全般になります。下記の目的や利用場面等をご確認いただき、撮 影につきまして、ご承諾賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

1、撮影の目的

院生の実習の振り返りを動画や画像をもとにより効果的に振り返る為に,実習の様子を撮影する ことを考えております。

2、撮影対象

授業や学級経営、行事など、児童・生徒の様子や教員の様子。また、実習中の教員研修などの撮 影も考えております。

3、利用場面

実習後の実習校での振り返りや大学院での授業において利用します。

4、プライバシーおよび個人情報の取り扱い

映像を含む個人情報は厳密に管理し、プライバシーの保護には十分配慮いたします。それらのデータは厳重に管理し、教育研究以外では利用しません。

以上

承諾書

横浜国立大学教職大学院の設置の趣旨を踏まえ、「実習に関わる撮影に関するお願い」に示された内容を確認し、必要な範囲での撮影を承諾します。

ただし、不適切と判断される場面や活用等が見られた場合、撮影を許可しない場合があります。

20●年 月 日

学校名

校長名